

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項（平成 28 年度実施分）

平成 28 年 7 月 14 日国立大学法人北海道教育大学
教員養成改革推進外部委員会制定

（目的）

第 1 平成 27 年 11 月 27 日付け北教大教第 73 号で学長から要請のあった以下に掲げる事項について点検及び評価を実施するものとする。

- （1）平成 27 年度教員養成課程における実践的教員養成の状況（以下「要請 A」という。）
- （2）現職研修プログラム開発への参画について（以下「要請 B」という。）

委員会はこの要請に応えるため、以下のとおり点検及び評価を実施する。

（実施期間）

第 2 平成 28 年度点検及び評価の実施期間は、平成 28 年 7 月 14 日から平成 29 年 1 月 31 日までとする。

（評価基準）

第 3 評価基準は、別表の「要請区分」ごとの「観点」とする。

（点検事項・方法）

第 4 点検は、別表の「観点」ごとの「点検事項」に基づき委員会が点検シートを作成し、大学が当該シートに所要の記載等を行い報告することにより実施する。

（評価及び意見のまとめ）

第 5 「観点」ごとに、報告された点検シートに基づき「分析結果とその根拠理由」及び「優れた点及び改善を要する点」にまとめる。

2 前項のまとめをもって、学長の要請にある「途中段階の意見」として提出する。

(授業の視察等)

第6 点検及び評価にあたり、必要に応じ随時、授業の視察又は職員への教育研究・地域貢献の状況に関するヒアリングを実施する。

(点検・評価のスケジュール)

第7 点検及び評価のスケジュールは次のとおりとする。

平成28年7月14日 学長へ実施要項及び点検シートの提示・作成依頼

授業視察・ヒアリング開始(随時実施)

平成28年9月23日 点検シート回収

「分析結果とその根拠理由」及び「優れた点及び改善を要する点」のまとめ開始

平成29年1月31日 学長へ「途中段階の意見」の提出

別表

要請区分	観点	点検事項
A	A-28-1 授業を進める上で最低限必要となる知識・技能の習得が行われているか。	授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。その際、観点の説明にある目標提示等の事項にかかる対応状況の説明を含めること。また、観点到に 応える理由についても付記すること。
	A-28-2 特別な支援を要する児童生徒に適切に指導できるための基本的な知識・技能を培う授業が行われているか。	授業の体系及び各授業において身につけさせる知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。また、観点到に 応える理由についても付記すること
	A-28-3 小学校外国語活動の指導についての基礎的・基本的な知識・技能を培う授業が行われているか。	授業の体系及び各授業において身につけさせる知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。また、観点到に 応える理由についても教育委員会との連携の状況を含めて付記すること。
	A-28-4 小学校と中学校の接続を意識したカリキュラムの編成及び免許取得が行われているか。	授業の体系及び各授業において接続を意識した内容について、授業科目・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。また、観点到に 応える理由についても付記すること。
B	B-28-1 学校現場におけるICTを活用した授業方法の研究が行われているか。	研究の成果を現すもの（研究論文等）及び研究の成果を反映した授業科目（授業の目標及び授業計画・履修年次・必修or選択を含む）について説明すること。また、こうした学内の取組みの成果を教育現場に還元していく方策について説明すること。
	B-28-2 専門分野や教授法の最新の研究成果が現職教員の支援に還元されているか。	研究の成果を現すもの（研究論文等）及び現職教員への支援の状況について説明する。

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項
に基づく点検シート（平成 28 年度実施）

観 点	A-28-1 授業を進める上で最低限必要となる知識・技能の習得が行われているか。
観点の説明	大学を卒業して初任教員となり、直ちに担任を持つケースも少なくなく、授業を進める上で最低限必要となる力が必須となる。課題の提示、習得の時間の確保、教科書に沿った授業展開、板書の仕方、発問の仕方、机間巡視や学習規律の確立にかかわる実践的な力並びに教科等の指導に必要な基本的な知識・技能の習得が求められる。
点検事項	授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。その際、観点の説明にある目標提示等の事項にかかる対応状況の説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。
※作成部局名	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日 （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料] （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 28 年度実施）

観 点	A-28-2 特別な支援を要する児童生徒に適切に指導できるための基本的な知識・技能を培う授業が行われているか。
観点の説明	特別な支援を要する児童生徒が増えてきている中、特別支援学級に在籍する児童生徒や通級指導教室に通う児童生徒のみならず、通常の学級で学ぶ児童生徒においても特別支援教育を必要としている場合がある。そのため、そのような児童生徒への適切な指導方法や、刺激の少ない教育環境の整備、福祉関係の関係機関・者との連携方法など、全ての初任教員が特別支援教育に関する基本的な知識・技能を身に付けておく必要がある。
点検事項	授業の体系及び各授業において身につけさせる知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。また、観点に応える理由についても付記すること。
※作成部局名	

※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日

（上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）

※ [関係資料]

（上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 28 年度実施）

観 点	A-28-3 小学校外国語活動の指導についての基礎的・基本的な知識・技能を培う授業が行われているか。
観点の説明	今後、学習指導要領が改訂され、小学校の中学年から外国語活動が、高学年から教科としての英語が導入される方向であることを踏まえ、発達段階に応じた指導内容、指導内容・指導時間に応じたカリキュラムの編成、ALTや専科教員等との効果的な連携の仕方などを含め、全ての初任教員がこれらの教育活動の指導力を身に付ける必要がある。
点検事項	授業の体系及び各授業において身につけさせる知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。また、観点に応える理由についても教育委員会との連携の状況を含めて付記すること。
※作成部局名	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日 （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料] （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項
に基づく点検シート（平成 28 年度実施）

観 点	A-28-4 小学校と中学校の接続を意識したカリキュラムの編成及び免許取得が行われているか。
観点の説明	北海道においては、約半数の 88 市町村で中学校が 1 校しかなく、このうち 39 市町村は小学校も 1 校となるなど、児童生徒や教職員同士の学びあいが困難な状況となり、地域の教育水準の維持・向上が大きな課題となっている。こうした中、義務教育 9 年間を見通した教育の取り組みからは、理科、体育や外国語活動などの専科指導など小学校と中学校の双方に乗り入れた授業や、異学年交流などの効果が確認されており、今後、こうした取り組みは一層進むことが想定されていることから、こうした教育に対応できる指導力を身に付けられるカリキュラムの充実が求められる。
点検事項	授業の体系及び各授業において接続を意識した内容について、授業科目・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。また、観点に応える理由についても付記すること。
※作成部局名	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日 （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料] （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 28 年度実施）

観 点	B-28-1 学校現場における ICT を活用した授業方法の研究が行われているか。
観点の説明	平成 28 年 12 月に出されている「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」中央教育審議会答申において、新たな教育課題に対応した人材の養成として求められており、今後、アクティブ・ラーニングなど主体的な教育活動の充実が求められる中、限られた授業時間数内において効率的・効果的に授業を行う際には、ICT の機器の活用が有効である。本道においては、ICT の導入に係る地域間の格差が大きくなっており、ICT 機器の活用方法、整備方法などについて市町村教育委員会や学校現場を支援していくことが求められている。
点検事項	研究の成果を現すもの（研究論文等）及び研究の成果を反映した授業科目（授業の目標及び授業計画・履修年次・必修 or 選択を含む）について説明すること。また、こうした学内の取組みの成果を教育現場に還元していく方策について説明すること。
※作成部局名	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日 （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料] （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項
に基づく点検シート（平成 28 年度実施）

観 点	B-28-2 専門分野や教授法の最新の研究成果が現職教員の支援に還元されているか。
観点の説明	大学は、専門分野や教授法について教育現場の教育課題への対応に資する研究を日々行い、成果を大学教育に還元しているところである。一方、現職教員は、学習指導要領の改訂への対応や日々学校現場に生起する課題への対応に追われ、時代の変化に対応した教員としてのスキル向上を果たす機会を十分に確保できない現状にある。このことから、大学が学校現場と連携し現職教員のスキル向上を積極的に推進することが求められる。
点検事項	研究の成果を現すもの（研究論文等）及び現職教員への支援の状況について説明する。
※作成部局名	

※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日

（上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）

※ [関係資料]

（上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）